

◇ はじめに 今夏超猛暑でも、誰に気兼ねすることなく、前橋育英の甲子園の奇蹟を、しっかりテレビ観戦した。東電によると、節電量が想定外だったという。電力危機はむしろ3. 11前より、なかったのでは？熱中症予防にかこつけ、エアコン使用を奨励、電力需要を暗に煽っていたようだ。・・・と勘繰るのは、やじ馬の意馬心猿か・・・

さて、このところ超猛暑・ゲリラ豪雨・水不足、桜島噴火等、日本列島(地球)が、狂ってしまったようである。折しも、新聞各紙が地球の異変を報じた。これ温室効果ガスの仕業？温室ガス削減は、世界の常識であるが真実は！フクシマ後、懐疑心と好奇心が、疼いて止まぬやじ馬が、今回と次号連載で投稿する。まずはご一読方・・・

◇ 海がおかしい 地球がおかしい

図1、図2はつい最近の新聞記事である。世界中の海の水温と水位が上がり、今後暴走する勢いであるという。



図1 高い海水温でサンゴ死滅



図2 IPCC 第5次評価報告の速報版

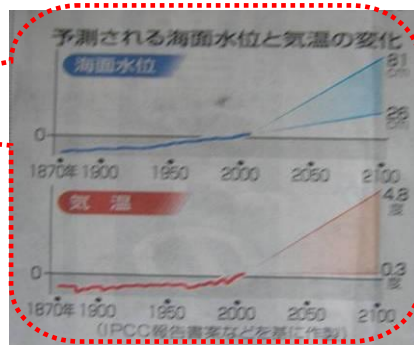


図3 同左のグラフ拡大

地球温暖化は人的 CO₂が主原因であるという。その根源は、IPCC(*1)評価報告書にある。2007年に第4次が発表された。6年ぶりの第5次発表前速報値が図3である。温暖化は、更に人的要因が、極めて高いと断じている。

(*1) 国連機関「気候変動に関する政府間パネル」科学者多数の研究評価をまとめたもの、温暖化CO₂犯人説でノーベル賞を受賞している。

◇ 温室効果ガスとは・・・

地球の大気は、窒素、酸素、アルゴン、CO₂等々ある。温室効果ガスとは、太陽の光で地球が暖まり、その地球から放射される赤外線吸収、温室効果をもたらすガス「CO₂・メタン・フロン等」(*2)をいう。地球は年平均14°C前後に保たれているが、若しこのガスがなければ-19°Cになるといふ。第2次世界大戦後(1946年～)炭素燃料が大量に使われ、人的CO₂が増加したことで、温暖化しているという。即ち宝物変じ、厄介物となってしまったのである。

(*2)温室ガスに水蒸気も入る。IPCC は問題視していない。温室効果の90%を水蒸気が占め、残10%中のMaxがCO₂との有力説あり。(次号)

◇ 海はCO₂の重要な交換機能である

CO₂=二酸化炭素=炭酸ガス (陸・海動植物に不可欠な有効ガス)

海水には大気中の60倍もCO₂が溶けている。これに比較すると、陸上植物の機能は微々たるものなのだ。図4は世界の海の年間平均交換機能を示したもので、青い域:CO₂を吸収、赤い域:放出している。ざっくり海水表面の温度が高いと赤、低いと青いと云える。

したがって、海水温が高くなることは、海がCO₂吸収→放出に転じる。マスコミは海面が上がった。珊瑚が死んだ。と報道するが、原発の「海温め装置」(*3)であることを、敢えて公表しない？海水が温まると、水蒸気や北極海と日本領海に、多量に埋蔵する“メタンハイドレート”から、メタン放出の弊害もある。

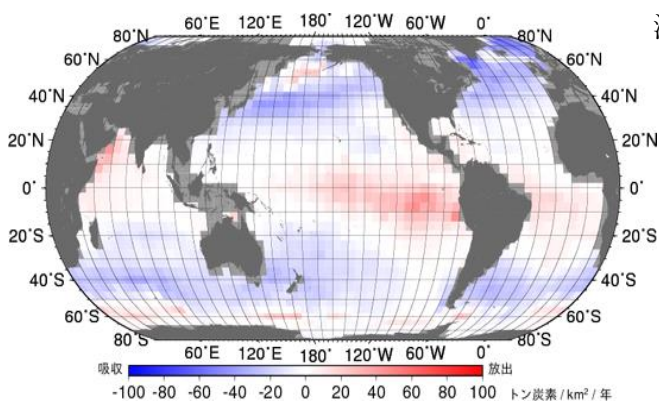


図4 海の年平均CO₂交換量の分布 [気象庁ホームページより]

◇ 原発は発電時CO₂を出さないという欺瞞 ...海水温を上げることで間接的にCO₂を出している！

原発はCO₂を出さないが、70%の廃熱で海水を上昇させる。100万kWの原子力発電所1基で、1秒間に70トンの海水温を7°C上げる。(*4)淀川でも流量は1秒間に150トンしかない。全国でも、1秒間に70トンの流量を超える川は、30前後である。こんな原発が全国で約50、世界では約450も稼働していたら、CO₂に関係なく海水温が上がり、地球にやさしくないのは、自明の理である。(いつの日か馬脚を露わすだろうが・・・マスコミ次第かも) 第4話 13.9.1 了

(*3)(*4)京大助教 小出裕章「ICPP 報告と温暖化CO₂説の問題点」2009.10 原子力安全ゼミより。[やじ馬かわら版 第2話参照]

◇ 次号(第5話)予告:CO₂原因説は本当か嘘か、京都議定書の破綻、IPCC 第5次評価報告を読み解く等、乞うご期待!!